

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第9回）「表現力の育成」部会 要点録

開催日時	平成21年12月4日(金) 午後4時10分～午後6時20分	
会場	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室	
出席者	委員	村松賢一、荻部一夫、片柳博文、山口義一、加藤芳和、武井和幸、井上康子、武者裕子、三浦秀樹、根本喜代江（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	谷川拓也 指導主事

部長

これから第9回の表現力の育成部会を始める。この部会も今日が最後ということで、うまくまとめられればと思う。よろしく願いたい。

次にアドバイザーの先生よりご挨拶をいただきたい。

アドバイザー

この会に参加させていただき、新聞やテレビ番組で表現に関するものがあるとつい気になるのだが、その一例を紹介させていただく。

作文教育に熱心な先生たちの座談会の記事があり、最近の子どもたちに何かを書かせると、「面白かった」「楽しかった」という簡単な言葉で済ませているという話題だった。普段の言語生活でも「むかつく」「うざい」といった手軽な言葉でコメントするが、何にむかっているのか聞いても分からず、答えられないという状態である。言葉に頼って表現している限り、自分の思いに気づくことも整理することもできず、人に伝えることができない大人になっていくことは恐ろしいことだとのことだった。また、現場にいると言葉の衰えを強く感じ、危機感を持っているとの発言があり、我々が取り組んでいる表現力の大事さを改めて感じている。

部長

ありがとうございます。それでは事務局より本日の議題と会の進め方の説明をお願いしたい。

事務局

本日の資料だが、部会ごとの資料の表現力の育成の内容。また、重視する項目で「表現に関する技能」に合わせた形で、他の柱について各委員に作っていただいたもの。その他にアドバイザーからの資料なども配らせていただいている。第8回の要点録については読んでいただき不都合があればお知らせいただきたい。さらに表現力の項目と各期の児童・生徒につけたい力を一覧にしたものを見やすいようにA3判で作らせていただいた。

確認していただきたい点が三つあるが、一つめは部会ごとの資料の中の「本部会の検討の視点」の内容で、重複した言葉を削除したり、言葉の修正をさせていただいた。二つめは「教育課程上の位置付け」で他の部会と相談のうえ、作文させていただいている。空いているところには具体的な事例があれば分かりやすいだろうという意見があり、このようにしてある。「目指す子供像」は前回のままだが、私なりに考えたものは言葉で用意させていただいている。

最後は「その他」の文章で、前回より軽めに書かせていただいた。

今日検討していただきたいのは、「教育課程上の位置付け」「目指す子供像」、各委員に各期に何々をするという形で検討いただいた内容の三つだ。よろしくお願ひしたい。

部長

それでは協議を始めたいと思う。最初は「教育課程上に位置付け」について事務局に読み上げていただきたい。

事務局

ここの文は基本的に中教審答申の内容をもってきており、表現力について一番具体的に書かれていると思う。(読み上げ内容省略)

このように各教科の力を基盤として表現力を高めていくという形で作らせていただいた。

アドバイザー

レポートや論述など書き言葉も表現活動に含めているが、これまで私たちは話し言葉での表現をイメージしてきたので、書きかたが変わってきてしまうと思うが。

事務局

レポートといった部分を音声言語で発表する場面などに変えなければ難しいということか。

部長

確かに本部会では話し言葉や音声言語をイメージして作ってきている。プレゼン前のメモ書きや相手に分かりやすく伝えるための文章構成など、文字言語も当然出てくるが、あくまでも付随して出てくるというもので前面に出すという議論はしていない。

アドバイザー

ただ一貫教育校推進委員会の答申を見ると、表現力を話し言葉には限っておらず、作文などが排除されるという訳ではない。幅広く表現力をとらえるならば話し言葉を含めることに異論はないが、この段階で入れていくことは難しいか、そうでもないか、皆さんはどのように考えるか。

委員

部長が言うように付随して出てくるもので前面に出す必要はないと思う。

委員

この文章が何を言いたいのかよく分からないのだが、教育課程上で何に位置付けられるかという話ならば、表現力はすべてに関わっていくということを知りたいのか。

事務局

育むべき力・単元は今後、総合的な学習の時間や特別活動の時間で計画していくものになる

が、その基盤は各教科で育てていくものだといいことを言いたい。

委員

先ほどのアドバイザーの疑問は書くことで表現力が育成されるというニュアンスにとれてしまう文章だからではないか。

委員

幅広くなりすぎているので口頭で言ったように「それぞれの教科でも育て、なおかつ総合の時間や特活でも」といった感じでシンプルにした方が分かりやすいと思うが。

委員

同感だ。

部長

もう少し分かりやすく書いた方がいいという意見があった。あと事例を入れた方が分かりやすいということで空間が空いているが、この点について何かご意見はないか。

事務局としては各期の事例を三つぐらい入れることをイメージしているのか。

事務局

事例というよりもこんな活動が考えられるという程度のもので、各期ではなくどこか一つでいいと思う。

委員

教育課程上の位置付けとするならば何か一つの例を出すよりも、発表、討論、プレゼンテーションなどの代表的な音声言語活動を並べておけばいいのではないか。

部長

では、事務局にはそういう形でもう一度お願いしたいと思う。続いて「目指す子供像」については口頭で案をもってきているということで事務局からお願いしたい。

事務局

五つの柱に関わる内容をピックアップする形で「自分の考えや情報を、相手に分かりやすく効果的にまとめ、積極的に表現しようとする子供」ではどうかと考えてきた。

委員

確認だが前回二つあったものを一つにまとめたということか。それとも二つの内どちらかを修正するという事なのか。

事務局

前回の皆さんの意見をもとに、長い文章が二つに分かれるより、一つにまとめた方が分かり

やすいと思い、このような形にさせていただいた。

部長

これについてご意見はあるか。

アドバイザー

自分の思いや情報、考えという順で説明するのが普通だと思う。考えというのは意見であり、思いや情報を踏まえ根拠に基づいて話さなければならないので、思い・情報・考えという並びの方がいいと思う。「自分の」という言葉もなくていいと思う。

部長

それでは「自分の」を取ってみると「思い・情報・考えを相手に分かりやすく効果的にまとめ、積極的に表現する子供」となるが、どうか。

事務局

各期で何々できる子供という能力面に焦点を当てているが、この文では最後が情意面になっている。こういうことができるという形に一貫しておかないと、せっかくのこれまでの話し合いが生きてこないと思う。ただ最後の部分をとってしまうと、今までの検討が上手くまとまっているとはいえず、何か足りないように思うが。

委員

「思い・情報・考えを相手に効果的に伝える方法を考え～」の方がいいと思うがどうか。

部長

「考え」がかぶってしまう。

事務局

後半の「考え」を「選択」という言葉にしてはどうか。

アドバイザー

「分かりやすく」がとられてしまったが、基本的なことなので「分かりやすく効果的に伝える方法を選択し」でいいと思う。

部長

「思い・情報・考えを相手に分かりやすく効果的に伝える方法を選択し」とまとめたが、この後はどうしたらいいか。

委員

私は「主体的」という言葉が好きだが「積極的」とどちらがよいか。

アドバイザー

どちらでも最後を「表現できる子供」にすれば、先ほどの統括指導主事の話は解決できるが、「主体的に」は「積極的に」を含むと考えられる。

委員

同感だ。

部長

それでは目指す子供像は「思い・情報・考えを相手に分かりやすく効果的に伝える方法を選択し、主体的に表現できる子供」で決定する。それでは最後の協議に入る。

委員

各委員の先生は表の中を具体的に何で埋めたらいいと考えたか。私はそれぞれの項目でこれまで定義してきた各期の子供の発達段階に照らして、どのようなことをする段階なのか考え示し、さらに単一の行動・活動といったものを例示して入れていくと考えた。

例として「調べる力」はテーマを発見する力と定義しているので、そのことについて発達段階を考えるとすればⅠ期は身近な人・物・場所などからⅢ期なら国家や地球規模というように空間と時間を尺度にして考えていけばいいのではと思う。

委員

私は「表現に関する技能」では歌う・伝える・OHP など具体的なものが出ているので、そういう内容を書くのかと思い表に入れてきた。

部長

私は副部長と同じように定義に基づいて、この表を見た人が具体的に何をすればいいか分かるようなことを書く必要があると思った。

「調べる力」のⅠ期ならば、学校や家族と体験したことがらとして「夏休みお話し会」、夢や想像したことがらとして「お話しづくり」、身近な場所を調べるとして「学校探検」「町探検」というように、おおよそこんなことをするということが分かるように書いてきた。「組み立てる力」「態度・相手意識」についても同様に考えたが、具体的にこの時期にこんなことを子供にやらせてくださいという提案を部会としてした方がいいのではないかと思う。

委員

乱暴な言い方だが、自分で作っていて非常にやりづらく無理やりという感じがした。皆さんから出てきた書き方もバラバラだし、きちんとやろうとすれば相当な労力が必要だと思う。今出てきたものをこの会議で一つひとつ議論してまとめるのは厳しい気がする。

委員

私も同じように何を基準にしていいか分からず、結局提出できなかった。教育課程上の位置づけでベースは国語科であるという文言があったので、進学指導の解説書から国語の「話すこ

と・聞くこと」の部分で資料として持ってきた。9年間を小学校は低・中・高学年、中学校は各学年の計6段階に分けている。表現は少し抽象的だが違いが見えた気がしたので、これを具体的にしていくことがヒントになるかと思う。

今、何をベースにしていくかをきちんと押さえておかないと、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期と区別していくのは非常に厳しいと思う。

部長

今のご意見で言うと国語の指導要領をベースにして書くということか。そうだとすれば「調べる力」で話題にする情報のソースは、必ずしも国語科ではなくもっと広い世界になるが。

委員

あくまでもベースであり、当然調べる作業も出てくる。国語科の指導要領には身体表現も相手を意識するという部分も出ている。

アドバイザー

私も同じような考えで学習指導要領との整合性を考えていくことは必要だと思う。この中には「調べる力」や「組み立てる力」、音声表現のことも書かれているので、これをベースにしながら具体的に膨らませていけばいいのではないかと。あとは一貫教育として検討しているのでスムーズな連携のため、小学校高学年と中学1年の部分を手直ししていけばよい。

部長

基準になるものということで今、話があったがそれでよろしいか。

委員

「表現に関する技能」に書かれたものが基準でもかまわないが、それでは他のものをそろえていくのが難しく、もう少しはっきりしたものが必要ということでお話しした。

委員

部長にやっていただいた具体的な内容を入れていくような感じでいいのではないかと。指導要領とも対応していると思うが。

委員

具体的な内容がダメだと言っている訳ではなく逆にいいと思うが、他の柱も同じようにそろえてやるのが難しいという話だった。

部長

私は表の中に入れる言葉が文章ではとても読めないと思っており、すぐに活動がイメージできるキーワード的なものでなければならないと思っている。

委員

部長が具体的に作ってくれた小学校のものに続けて中学校の部分を発展させて作るのは厳しいと感じる。

委員

私は根本的に無理があると言いたい。もしやるならば基準を決めて、誰かがやらないと時間がかかり過ぎ無理だと思う。出てきたものの考え方が様々なのも準備されていないものがあるからで、極端に言えば一人で作らないと何度やってもまたばらばらになる。

委員

小学校と中学校の違いがあって一人で作るのは難しいと思う。

委員

一人で完成させるのではなく、誰かがたたき台を作ってそれについて検討していけば短時間でできるだろうという意味で発言した。

アドバイザー

どこまで具体的に書くかによって違うと思う。Ⅱ期の「連想マップ」「掲示法」、Ⅲ期の「アンケート調査」「考察の方法」等を入れてしまうと、ここでやって下さいという拘束力を持ってしまうので、かなり時間をかけて議論しなければならない。少し抽象的でもいいのであれば、皆さんからかなりの材料は集まっているので、時間的にも書けると思う。

事務局

とりあえず私の方でまとめてみたいと思う。

アドバイザー

せめて部長と副部長はいた方がいいのではないかな。

部長

それでは私と副部長と事務局で原案を作らせていただく。ただ原案を作っても叩く時間はないので、皆さんからいただいた資料を十分読み込み、なるべく反映できるようにしたい。ただ、一定の切り口で書かないと整合性を欠くことになるので、全ての言葉をそのままとはいかないことを了承いただきたい。

アドバイザー

基本的によいと思うが、もう一度各柱について何を盛り込むかを確認した方がいいと思う。「調べる力」はかなり合意され整理できていると思う。「組み立てる力」は演出に関するものがまだ出てきていない。「表現に関する技能」は何を盛り込むかが曖昧なままになっている。指導要領にも書かれている声の大きさや抑揚などの音声言語の部分は表現の一つの柱として間違いないが、視覚教材やICTの活用も非常に大切な柱の一つで別立てでもかまわないかと思う。

部長

同感だ。表現の中には含まれるが、一つの縦に流れるものとしてとらえていいという思いが前からあった。ICT 以外は音声の問題になると考えてよいか。

委員

私は紙芝居とか実演というものも考えていたが。

アドバイザー

中学一年の指導要領を見ると表現は音声だけではない。「相手や場に応じた言葉使い」などはこの柱に入ってくると思うが、「態度・相手意識」にも関わってくる部分がある。相手を考えてということであれば音声も含め全部「態度・相手意識」に移してしまい、「表現に関する技能」は ICT 中心でいいと思うが、他に何か一つぐらいは欲しいと感じる。

部長

ICT やペーパーサート・人形劇などの部分だけ集めた方がはっきり整理できる。ただ、紙芝居なら各期とも紙芝居になってしまうが、ICT のように各期で使い方にレベルの差はできるものか。

委員

中学生は使わない。

アドバイザー

Ⅲ期で紙芝居はやらないと思う。Ⅰ期に ICT というのも無理があるので紙芝居やペーパーサートなどのツールから ICT という流れかと思う。歌や演奏、踊りなども表現なので ICT・ツールの他にこれらも入ってくるのがいいのではないかと思う。

部長

歌は ICT とは別の流れだが、各期に歌はあるのではないか。低学年で集中してやるとも限らず、中学生あたりでも歌や踊りでの表現は面白いと思う。ただ演じるレベルは違うのに、この表の中では各期とも「歌」と書く以外に表し方が分からない。

委員

「表現に関する技能」とは歌や踊りのレベルを上げるというものか。それは音楽や体育の教科学習の役割ではないか。

部長

確かにそうだ。ただ、表はⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期とあり他の柱でもこの期にはこういうことと書いていくのだが、同じ言葉で各期に「歌」と入れる以外に書きようがないかと思っている。

委員

各期に「歌」と書かなければまずいか。説明や定義のところで「身体を使った表現なども含

め」と押さえてあるので、それらを相手や場に応じていかに効果的に伝えるかということで表を埋めるのがよいのではと思った。

委員

項目を追加していけばいい。Ⅰ期で紙芝居が使えるなら表に書き、Ⅱ期やⅢ期で使ってもいい。段階としていろいろな表現方法を知り、効果的に使い、最後は活用するというのがあるので、それぞれの道具・手段の導入に適した時期という形で表せばよいのではないか。

委員

導入時期で書いて、ほかの期でも使えるなら使うというのはすごくいいと思う。

部長

他にはないか。

アドバイザー

「態度・相手意識」についても定義が二つあるが、違いがはっきりせず曖昧になっている。

委員

「言葉を使い分ける」というのはちょっと違って、国語科では「場に応じた言葉遣い」という言い方はする。ただそれだとあくまでも言葉遣いの問題で力ということではない。

委員

自分の考えを分かりやすくということと、場に応じてということが輻輳しているのではないか。音声言語が中心だが身体表現なども含むので、「分かりやすく、相手や場に応じて伝える」という感じではないか。

委員

一つめは「相手に分かりやすく」ということで話の組み立ての順序や理由をしっかりと言うという意味合いがある。二つめは「相手や場に応じて」なので目上の人や全校集会などに絞られているように受け止められるが。

アドバイザー

そうすると前半は「組み立てる力」と重なってくる。

部長

「組み立てる力」の要素を抜いた、はっきりしゃべるとか口をしっかりと開けるといったことを表すための文言を考えなければならない。また、私は音声表現以外の「声の大きさ」「うなづき」「視線」「表情」などはあえて「表現に関する技能」から「態度・相手意識」に動かしたのだが、どちらに入れるかきちんと位置付けておかなければならない。

委員

話す大きさや速さなどは相手意識の方に入れてやった方がいいと思う。

アドバイザー

そのようにすると相手意識の枠の中で考えるということが鮮明になる。相手があつての声の調節であり「態度・相手意識」に入れた方がいいのかもしれない。

部長

あとご意見がなければそろそろ締めたいと思うが、他に何かないか。

委員

「語い」についてはどうしたらよいか。各期であまり分けないという話もあったが、一応目標のようなものがある以上、何らかの形で分ける必要があるか。

部長

こういうふうに書いてみたらという考えは何かあるか。

委員

語いに絞った指導の仕方はあるが、専門的なため国語の教員で勉強した人でないと難しい。

部長

語いを増やすのに最初の段階ではどうすればいいのか、短い言葉で教えていただきたい。

委員

小学校の一年生なら一文で日記を書いてみるとか、本を読んで短い言葉で感想を書く。Ⅱ期ぐらいになると熟語が出てくるので、熟語を使った短文を作らせ熟語の数を増やす指導をする。また、古文や和歌を読んで古典的な言葉が出てくるようにするなど、それぞれの時期の語いの増やし方はあると思うが、増えただけではなく適切なものを選択したり、吟味したりすることも必要。ただ、吟味は高学年にならないと難しい部分があると思う。

委員

吟味や言葉を選ぶ力をつけさせるにはどうしたらよいか。私が思いつくのは詩の創作や鑑賞などだが。詩は言葉を削って行って吟味しなければならない。

委員

あと名画を言葉で人に伝えるなどは、抽象的な言葉が身につかないと出てこないでⅢ期なら指導できる。詩などであれば比喩の指導など、それなりにできることはあると思う。

部長

言葉の増やし方の具体的な活動をイメージできる短い言葉、例えば日記指導などはすごくい

い感じなのでまとめていただきたい。

委員

小学校3、4年になると辞書の意味調べが語いでは一番のポイントになる。分からない言葉を調べてさらにその言葉で短文を作るという…。

委員

中学になって漢和辞典を使うとさらに漢語などが増える。

部長

語いのところも難しいが何とかできそう。他に何かあるか。

アドバイザー

学習指導要領の3、4年で「必要な事柄について調べ、要点をメモする」というのがある。皆さんのご意見では出てこなかったが、要点をメモすることは「調べる力」の重要なスキルの一つだと思うので、ぜひ入れていただいた方がいいと思う。

部長

他になれば協議の方を終了する。今回で終わりということでありがとうございました。

事務局

それではこちらの方でまとめさせていただき、ある程度まとまった段階でアドバイザーの先生、委員の皆さんにお渡しし了解をいただく形とさせていただく。表現力という影も形もないところからスタートし、たくさんのお知恵をお借りしながら部会としてのコンセンサスを得て動き始めた。最終的な細かな活動イメージは時間的に間に合わなかったが、中間報告として形あるものにしたいと思う。

来年度は報告書を作成しなければならない年になる。異動等なければ引き続き皆さんにお願いすることをご承諾いただければと思う。スタートは本年度より若干早くなると思うが、実践例を集めた実践・活動集の作成をイメージしているので、様々なご指導をお願いしたいと思う。

本当にありがとうございました。

部長

最後に副部長に締めていただきたい。

委員

まず、アドバイザーの先生には長きにわたりご助言・ご指導いただき、ありがとうございました。委員の皆様もご多忙の中、遅くまで協議・議論を重ねていただきありがとうございました。最終的には部長とともに皆さんから今日いただいたご意見を基にまとめさせていただくが、ぜひ次年度もご協力いただければと思う。

本当にありがとうございました。